



会報

# 札幌くらぶ

2022年 11月 第99号

編集・発行／札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付

ホームページ <http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/>

第34回札幌くらぶサロン

## 多賀登さん

クラリネット奏者から

札幌事務局長へ

十一月三日の文化の日に第34回札幌くらぶサロンが、ゲストに札幌交響楽団の事務局長多賀登さんをお迎えして開催されました。

第1部は事務局長という仕事についてのお話です。多賀さんは、2020年4月にクラリネット奏者から事務局長に就任されました。そう、コロナと同時にスタートなのです。当時の私の手帳を見ると、コンサートの中止のバツ印がたくさん残っています。多賀さんは、その中止の決断をするのが事務局長として最初の仕事だったそうです。

演奏会がない中、事務局や楽員さんたちと何ができるかを話し合い、それぞれができることを行動に移していったこと、動画配信でアンサンブルの演奏に立会い、改めて生の音に感動したこと、クラウドファンディングでファンの皆さんの札幌への応援コメントが嬉しかったこと、だからこそ札幌を守っていかなければならないと改めて強く思ったそうです。

またコロナがきっかけでオフイスキューとの関係が生まれ、それが先日行われた絵本の読み聞かせコンサートにつながった

とのこと話に、また新たなファンが増えたのではと嬉しくなりました。

多彩で、興味深いお話が次から次へと



「どのようにして定期演奏会のプログラムを決めるのか」との質問には、まず指揮者を決め、ソリストは指揮者が希望することもあると提案する場合もあるとの回答でした。定期演奏会はオーケストラの技量を上げること

熱心に耳を傾ける参加者30名



も目的の一つなので、それをしてくれる指揮者でなければならぬと、その大切さも語ってくださいました。

また、現在定期演奏会の前配信される楽員さんによるプレトークについても、演奏家目線で話すことでより面白さが伝わっているのではないかと、同時にそれを語る楽員さんの魅力が皆さんにもっと伝わってほしいと。私もこのプレトークは毎回必ず見ている、楽員さん同士の掛け合いが面白く、次は誰が登場するかとても楽しみにしています。

休憩をはさんで第2部はクラリネット奏者としてのお話です。始めたきっかけは、なんと母親に習わされたピアノから逃れ

るためだったとか。先見の明があったのでしょうか。それが小学4年生の時、N響を辞めたばかりの首席奏者に指導を受けることができたのも驚きです。

ウイン留学では、日本では先生にほめられていた演奏が、「エチュードみたい」と言われたり、「いいけど、俺たちとは違う」と言われたりしたそう。演奏は技術だけではなく、何をしたいのか、どういう音楽を持っているのが大事だということを学んだそうです。

留学中時間があるときは、安いので(立見席150円)毎日のようにオペラを見に行ったり、学生は美術館も無料で、旅行も安く行けたのでイタリアなどに行ったり、そんな体験をたくさんしたおかげで、創造力の引き出しが増えたとのこと。

その頃の思い出の曲として紹介してくれたのは、クラリネットの曲ではなく、ピアノのホルヴィッツの演奏。技術云々よりも遊び心に溢れているところが好きで、ジャズの小曾根さんの感じに似ているとか。次は大好きなオペラ歌手のルチア・ポツプによる歌曲、歌に気持ちが表れていて人柄の良さが伝わってくるそう。表現者であるその人に興味を持つのでしょうか。そういうえば、こんなこともおっし

やっていました。「アイデアがある人は発展していくのだと思う。年を経て変化した姿にまた会えるのが楽しみだ」と。

札幌に入団して28年、後半は徐々に札幌の昔からのものに新しいものが加わっていい変化をしていると言います。

最後に「今の札幌の演奏はともよいと思っていて、こんな風に自慢できることが嬉しい」と語ってくださいました。これはファンにとっても嬉しい言葉で、ますます札幌を応援しようという気持ちが強くなりました。

ミニコンサートも交流会もなかったけれど、興味深いお話が満載で、あつという間の2時間でした。たまにはこんなサロンもいいのではないのでしょうか。

会員／定政みち子



チェロ奏者の小野木さんから「Alba String Quartet」へのご案内も

# 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸三（札幌くらぶ顧問）

12月〜2月 hiaru シリーズ 定期演奏会 名曲

hiaru シリーズ定期演奏会

第11回

12月15日（木） 19:00

指揮 川瀬賢太郎

サクソフォン 上野耕平

ピアノ 山中惇史

パーカッション 石若駿



川瀬賢太郎

©Yoshinori Kurosawa

## ■ニールセン

「フェロー諸島への

幻想の旅」

スコットランドのシエトランド諸島およびノルウェー西海岸とアイスランドの間にある北大西洋におよぶ島々からなるフェロー諸島から住民50名がコペンハーゲンを訪れ、民族音楽を

披露した。これを主催した王立劇場からの依頼で作曲されたこの曲は、ニールセン円熟期の作品らしく豊かな管弦楽の音色が

楽しめる。真夜中の静かな海への出航からはじまり、小鳥のさえずる夜明けに島へ到着。古い宗教歌曲の旋律を用いて、島の雰囲気美しく表現され、さらに陽気な舞曲調へと曲は進んで

いく。

## ■吉松隆

サイバーバード協奏曲（1994）

筆者は中学・高校と吹奏楽部でサクソフォーンを吹いていたが、音楽大学を受験する場合、この楽器の専攻科は無く、当時と

しては珍しいファゴットを学ぶことになった。今では考えられないかも知れないが、サクソフォーンはクラシック楽器としてのイメージがなかった時代である。この楽器を使用する名曲にはラヴェルの「ボレロ」があるが、特に近代フランス作品や現代作品では大活躍だ。

この曲もアルト・サクソフォーンの魅力が管弦楽、独奏ピアノ、マルチ・パーカッションなどと共にポップな感覚で堪能できる。1994年、サクソフォーン奏者須川展也による委嘱作品で、この曲の作曲中、吉松の妹が「生まれ変わったら鳥になりたい」と言っていて癒で亡くなっている。

## ■メンデルスゾーン

交響曲第3番

「スコットランド」

メンデルスゾーンは、17曲の

交響曲を残したが、そのうち最初の12曲は早熟だった少年時代に書かれた小規模な作品で、その後の5曲に番号が付けられ一般によく知られている。しかし、番号順に作曲された訳ではなく、この曲は作曲家最後の交響曲となる。ただし、作曲に着手したのは第4番「イタリア」より以前である。明るい色調を放つ「イタリア」に比べ、「スコットランド」は、作曲者がメリー王女の居城であったホリドール遺跡を訪れ、さびしくも美しいスコットランドの風景と女王の悲劇を重ね合わせながら、その神秘的な雰囲気をも音化した短調で書かれている。4つの楽章が切れ目なく演奏される一大幻想曲ともいえるべきこの作品を今年正指揮者に就任した川瀬賢太郎が、清新なドライブで聴かせてくれることだろう。

## ■武満徹

雨ぞふる

武満の全作品中でも「雨」という言葉は、頻りに登場する。特に80年代初頭に多く見られる。この曲は編成が小さいため、全編にわたって凝縮度の高い音楽が展開する。特にフルートをはじめ管楽器の音の重なりが実に秀逸。題名の「降る」は「鳥は星形の庭に降りる」と同様、「訪れ」の情景を示唆すると

第650回定期演奏会  
2月4日（土） 17:00  
5日（日） 13:00  
指揮 マティアス・パーメルト  
フルート カールII  
ハイツ・シュッツ  
ハーブ 吉野直子



上野耕平

©S. Onogi



山中惇史

©Takafumi Ueno



石若駿

©seiya uehara



マティアス・パーメルト

©Yasuo Fujii



■モーツァルト  
フルートと  
ハープのための協奏曲

作曲家もあまり気の進まない仕事を引き受けなければならぬことがある。この曲は、モーツァルトの就活が不調に終わりマンハイムからパリに足を伸ばしていた頃に、フルートが達者なギーヌ侯爵の依頼で作られた。

侯爵の令嬢に作曲を教えていたモーツァルトは、彼女が根っから頭の悪い、怠け者であると手紙で書いてあり、この二人のために協奏曲を書くことは乗り気でなかったであろう。さらにモーツァルトはフルートを独奏楽器としてはあまり好まず、当時のハープは半音階移動が十分にはできない不完全なものだったからなおさらである。しかも受けとった報酬は彼にとって屈辱的に少ない金額であった。しか

し、作品はロココ趣味に徹した典雅なフランス風サロン音楽に仕上げられている。顧客がどうであれ、最上の商品を提供するモーツァルトのプロ意識はさすがだ。

■シューベルト  
交響曲  
「ザ・グレイト」

この交響曲は、シューベルトの亡くなる年に書かれたと長年思われていたが、自筆譜表紙の読み間違えであることが検証されたのが、わずか30年ほど前のことである。当時、シューベルトは歌曲の作曲家として名を知られていたが、交響曲や室内楽曲の作曲家としては、ほとんど知られていなかった。そのため「未完成交響曲」も含め、演奏されず埋もれてしまった作品が多い。この曲も作曲者は音とし

て聞いていなかった。シューベルトの死後、彼の墓参りに訪れたシューマンが、遺品から偶然この曲のスコアを発見し、メンデルスゾーンによって初演された。ベートーヴェンの第9交響曲に憧れを抱いて作曲されたというこの曲をシューマンは、「至るところに深い意義があり、一音一音が鋭利を極めた表現を持ち、深いロマン性がまきちらされている。」と評したように、まさに「グレイト」な交響曲なのだ。第1楽章は、冒頭2本のホルンがシンブルな序奏主題を吹奏し、この主題が多彩な楽器で扱われ昂揚しながら主部へ進む。緩徐楽章は、付点リズムを持つ愛嬌のある旋律と下降する穏和な旋律が交差し、続くスケルツォ楽章は中間部で郷愁を誘うレントラー舞曲風の旋律が表れる。そしてソナタ形式の長大な終楽章でこの曲は閉じられる。



宮川彬良

©PACO

アキラさんの  
名曲コンサート  
2月18日(土) 14:00  
指揮とお話 宮川彬良  
プレトーク 新井鷗子

■バーンスタイン  
シンフォニック・ダンス

「ロミオとジュリエット」を素材に1950年代のアメリカ・ニューヨークを舞台として、移民系の二つのグループが抗争を繰り広げる中で芽生える恋を描く名作ミュージカル「ウェスト・サイド物語」は音楽を担当したバーンスタインの代表作となった。1961年に映画化され、60年を経たリメイク版がステイヴン・スピルバーグ監督により制作され、今年2月に公開された。この曲は、このミュージカルの主要な9曲を集めてオー

ケストラ演奏会用の組曲としてバーンスタイン自身により作曲。映画化された年にニューヨーク・フィルハーモニックが初演したが、指揮者はバーンスタインではなくルーカス・フォスだった。「サムウェア」や「クル」などお馴染みの旋律を次々に聴くことができ、ミュージカルの魅力をダイジェストで味わうことができる。

れない。歯切れの良いマンボのリズムにのって、トランペットのハイトーンが強烈に響き、何と言ってもブラード自身が放つ「アーツ・ウツ!!」のかけ声が耳から離れなかった。吹奏楽部で同団の代表曲「マンボNo.5」の旋律をサクソフォーンで演奏できた喜びも脳裏に残っている。この名曲とベートーヴェンの「運命」を宮川彬良がオーケストラ版として見事に合体させた。2つの楽曲とも気持ちが高ち込んでいく時に聴くと、滋養強壮剤のように活力が漲ってくる。困難な世相の中で、ひよっとしたら札幌団員による「アーツ・ウツ!!」が聞けて元気をもらえるかもしれない。

(写真協力 札幌交響楽団)

■ベートーヴェンIIブラード  
シンフォニック・マンボNo.5

もう50年ほど前になるが、筆者がかつての札幌市民会館でレクチャー演奏の生演奏を聴いた興奮は今でも忘れら

新井鷗子 ©Tomoko Hidaki



楽員さんに興味津津

③

フルート奏者

福島さゆりさんに聞く

♪ ターニングポイントには森圭吾先生！

北海道石狩市出身、フルート奏者の福島さゆりです。幼い頃から家の畑(家庭菜園)で採れたピーマンを丸かじりするなどのびのび天真爛漫に育ったようです。

5歳から近所でピアノを習い始め、笛との出会いは小学校4年生で入部したリコーダークラブでした。全国大会出場常連校で、毎朝7時半に学校へ行き音楽室で朝練習をしていました。主にソ

と決めていました。その強い意志もあり(笑)、無事に中学校の吹奏楽部でフルートを始めることができました。



2人の兄と富良野にて

ちなみに高校では合唱部に入部し、アルトパートでした。内声パートの経験がオーケストラでも役に立っているのかもしれない。

高校生になった頃、札幌に長年いらした森圭吾先生に習うことになりました。初めてレッスン

ンへ伺った際に、先生から「藝大行けよ！藝大！」と言われた私は、すっかりその気になってしまったのです。藝大受験の道のりは当時の私には大変厳しかったのですが、これが今に至る重要なターニングポイントとなったのは間違いありません。残念ながら藝大は不合格でしたが、

高倍率にもかかわらず運良く東京芸大音楽科へ入学できました。

学芸大学で4年間お世話になった清水和高先生は巨匠マクサ

私には特別な音楽の才能は一切ないと断言できるのですが、

の多い4年間でした。そんな気持ちを抱えながら毎日練習室へ何時間も籠り、一人でひたすら練習していました。

♪ 才能は「しごとさ」と「思い込み」

東京藝大には学部、大学院を含めて何度も挑戦しましたが、芸大にこだわっていたというより、とにかく音楽大学で勉強したかったのが理由です。

藝大大学院入学後はオーケストラ、室内楽、吹奏楽、座学の授業も可能な限り出席していました。また、藝大フィルのチリ公演やロンドンアカデミーとの合同

オケでイギリス公演への参加など貴重な経験をたくさん積み重ねることができました。

私には特別な音楽の才能は一切ないと断言できるのですが、

## 高音楽器に魅せられて



©K.Seki

### プロフィール

石狩市出身。東京学芸大学音楽専攻卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了。桐朋オーケストラ・アカデミー修了。市川市文化振興財団第29回新人演奏家コンクール最優秀賞。第34回かながわ音楽コンクール第1位。第18回日本フルートコンヴェンションコンクール、第29回木管コンクール入賞。福島育英会短期海外学修助成にて、P.L.グラーフ氏、M. M. コフラー氏のマスタークラスを修了。ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン 2019 修了。神奈川県フィルハーモニー管弦楽団第13回フレッシュコンサート出演。これまでにフルートを森圭吾、清水和高、小池郁江、高木綾子、神田寛明、室内楽を和久井仁、五十畑勉、入江一雄、フラウト・トラヴェルソを前田りり子の各氏に師事。試用期間を経て、2021年2月1日付で札幌交響楽団に入団。



学生時代、アルバイト先の某スーツ店にマクサンス・ラリーユ氏が偶然来店



そんな中で私に何か才能があるとするれば、「しびとさ」と「思ひ込み」だと思います。

とにかくフルートを続けたかったので、札幌に合格するまでの約4年間で全国各地のオーケストラや吹奏楽団のオーディションを15回受けていました。そんな中たまたま地元のオーケストラに合格できたのです。それはもちろん大変ラッキーなことですが、何より札幌は本当に素晴らしいオーケストラなので、

## ♪ 生まれ育った土地だからこそ

札幌に入ってから時間が経つごとに、生まれ育ってきた土地

だからこ今でも色々な繋がりが続いているのだと気がつくことが増えました。

それは私の気がつかないところで中小高校生の頃の友人やその親御さんなどが応援してくれていたりと、札幌を聴きに来てくださいっていると知ることが増えたためです。なんと先日は室蘭市の「第九」で、高校の担任＆合唱部の顧問だった先生に本当に偶然お会いしました！

このようなことが続き、札幌で活動で

ドライブで行った山中湖



「あんみつ さきの」  
夏季限定かき氷



きる喜びをますます感じるようになりました。

入団したのがコロナ禍真っ最中にもかかわらず札幌の皆さんは温かく迎え入れてくださり、本当に感謝しています。フルートの川口晃さんにもたくさん迷

## ♪ オケの経験を生かして幅広い活動を

フルートは趣味ではありませんが、フルート以外にやっている、趣味と呼べるようなものはありません。ただ、カフェとスイーツが好きなので訪れる先でお店を探すのが好きです。最近のお気に入りには田山の「あんみつ さきの」です。札幌の先輩に教えていただきました。

また、自然の景色を見るのもリフレッシュになり、特に海や湖がある景色がとても落ち着く

の素晴らしいメンバーと室内楽をやりたいです。また、もうすぐ30歳になるので、節目としてソロサイタルも企画したいです。

そして、皆様に今一番お知らせしたいのは、2023年1月29日、日演連「新進演奏家育成プロジェクト」オーケストラ・シリーズです！こちらの演奏会で札幌とイベールのフルート協奏曲を共演することになりました。イベールはオーケストラもとてもカッコいいので、札幌と演奏できるなんて本当に楽しみです。

そしてなんと、ヴァイオリンの赤間さくらさんも出演します。

ぜひ、皆様お誘い合わせの上聴きにいらしてください。そしてお越しいただける札幌くらぶ

会員の皆様は、チケットはぜひ、ぜひ、こちらへご用命ください！(泣いて喜びます)

さゆりとさくらで頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします！

チケット受付 (福島・赤間宛)  
ticket.20230129.sayu@gmail.com

メールは  
こちらから



## 投稿のお願い

会報「札幌くらぶ」は1997年1月に創刊号が発行されて以来、次号で第100号を迎えます。

100号発行という区切りを迎えるにあたって、会員の皆様から会報の投稿を募集致します。会報にかかわる思い出し、ご意見、ご感想、ご希望等、お寄せいただければ大変有難く存じます。

テーマ会報100号発行に寄せて  
字数:自由  
締切:12月31日(土)  
宛先:064-0064-1

札幌市中央区中島公園1-15  
札幌事務局気付  
札幌くらぶ事務局  
kaho@sakvoolb.net  
(会報専用メールアドレス)

## お知らせ

札幌くらぶでは、これまでも札幌楽団員の活動支援としてリサイタル等へ「名義後援」を行って参りました。このたび、その運用方法を整備し、より積極的に「名義後援」に取り組むこと致しました。

会員の皆様には出来るだけ早く情報をお届けしますので、ご支援をお願い致します。

## 砂川のバーメルトさんに会いたくて

「砂川のバーメルトさんに会いたい！」

大昔、私は4年程砂川市民だった。それでそう思ったのかもしれない。その思いが通じたのか、「砂川公演に行くけど、車、まだ乗れるよ」と誘っていた。いた。「チケットはセブイレブンで。番号はこれ」え？そうか、キタラでは買えないのだ。定期は会員だし、名曲とヒタル定期は電話で購入。コンビニは初めてだ。

早速セブイレブンに行き、このチケットをくださいと番号を見せた。すると、店員さんが「これ、うちのじやなくて、ローンじゃない？」という。私の聞き違いだったのか。家で確かめると、間違っていた。後日2回目の挑戦をすべく別のセブイレブンへ。今度はペテランのような店員さん。私が差し出す番号を見て、やっぱり「これ違う。うちの番号じゃない。ね、違うよね」と隣の店員に確認する。何がダメなんだろう。すこすことまた引き返す。今までの私ならここであきらめて

しまうのだが、「砂川のバーメルトさんに会いたい！」という思いは日々高まっている。

何か特別な方法があるのだろうか。と、札響のホームページを隅々までじっくりと見た。すると最後のほうにセブイレブンでチケットの買い方が出ている。店員ではだめだったのだ。機械でなくては。

購入の仕方を頭に叩き込んで3回目のセブイレブンへ。ATMでも緊張する私。後ろに人がいないのを確かめてからおもむろにコピー機の隣の機械の前に対峙する。必要事項を間違え

ないように入力すると、ようやく終了の案内が。同時に画面が消えた。え？チケットはどこ？キヨロキヨロ探していると、隣にいた女性が微笑みながらコピー機の吐き出し口を指さしている。私は赤面し、「すみません、初めてなので。ありがとうございます」と足早にそこを離れた。

レジに行つてようやくチケットを手に入れた。ものすごく貴重なものに思えた。大事に大事に持っていた。それなのに、砂川でバーメルトさんには会えなかったのだ。

### 会員/定政みち子

## 「hitaruでシネマ・ミュージック」私想

丸善本店で「カサブランカ」の写真を買った。その後、日本橋で首都高を見上げ、にんべんの香りが微かにあつた記憶。I・P・グマンが微笑みで乾杯したサムが歌う「時の過ぎゆくままに」のメロディ。あの時の君は今どうしているのか？

脳裏に微かな景色が2回転半したらヒタルの2階席にいた。札響の「シネマ・ミュージック」は指揮者の円光寺雅彦さんのお話から始まった。懐かしい

映画の名曲が詠われた。

アンコールは「エデンの東」、編曲の工夫が色々あつたようだ。曲の途中にはいくつかのソロもあつた。円光寺さんは「5分間で終わる短い曲を日本で一番多く演奏している指揮者」と自己紹介していた。その豊かな経験の蓄積があるからこそその粋な演出ではないだろうか。



シネマ・ミュージック 指揮：円光寺雅彦 hitaru

(写真協力 札幌交響楽団)

## 札幌砂川公演を聴きに

— 大人の遠足を兼ねて —

8月7日(日)、札幌くらぶのメンバー3人と札響の「砂川公演」に出かけた。午後三時開演のところ午前十一時に出発した。久しぶりの遠出なので、寄り道を想定してのことである。気分はまるで遠足であった。

まずは今年3月にリニエールオーブンプンした「ロイズふと美工場」に立寄った。畑の真中に突如現れた白い建物はバラに囲まれている。近くには「ロイズ

タウン」という、JRの新しい駅もできていた。

その後、浦臼では農家の直売所でメロンを購入。ズッシリと重いメロンが2個で1500円、安っ！。たちまち8個のメロンが車に積み込まれた。

砂川の会場には午後一時過ぎに到着。砂川駅前を4人でブラブラした後、昼食を済ませて再び会場の砂川地域交流センター「ゆう」へ。開場30分前だというのに、すでに数十人が並んで

いた。札響の演奏を心待ちにしていることがうかがえる。

「ゆう」は多目的ホールで、移動席と可動式固定席を合わせて500名を収容できるという。当日はほぼ満席であった。この日の札響はホールに合わせた小型のオケで、「運命」では舞台上に乗っていたのは49名であった。「ゆう」の音響はキタラなどには比べべくもないが、観客の札響への期待と演奏に接した喜びはキタラの観客に負けてはいないと感ぜられた。

確かに前売り券は完売していた。しかも4階の客席が開放されたのも久しぶりだと思ふ。ヒタルでの映画音楽、1時間を楽しく過ごした。それは懐かしさだけでは無い時間だった。僕自身、その時間の共有は非常に濃かったのだから。君は、夜霧の向こうに行った。だけど心の中に今、熱い友情と残響が残っている。

会員/村山英明

会員/塚田 総



砂川公演 指揮：円光寺雅彦 地域交流センター「ゆう」

(写真協力 札幌交響楽団)

この秋は忙しかった。散歩のおかげか、だいぶ元気が出てきて、コンサートに出かけられるようになった。

なかでも、9月の石川祐支さんと大平由美子さんのデュオリサイタルは円熟した演奏ですてきだった。

10月はアマチュアのオーケストラがいろいろあり、その一つ札幌室内管弦楽団のコンサートはよかった。若々しく明るい音で札幌のアマチュア楽団も質が上がったのだなあと嬉しくなった。ゲストの大平由美子さんのピアノ独奏は姿も美しく、新しいドレスがとても優雅で目も耳も満足した。

11月には札幌クラシック&ポップスコンサートへ。久しぶりに札幌の音が鳴り出した。ああ尾高マエストロの音だ！懐かしい…。17年前(2005年)札幌のマチネが始まって尾高さんの指揮を聴いて涙が出たのと同じ感激を味わった。3年ほどの空白は長かった。コンサートホールの階段の上り下りができるように体力をつけよう。

私の散歩道は北大の構内なので今まで何も考えずに好きな道

を好きなように歩いてきたが、ふと、気づいた。ここは都会のど真ん中なのだ。

原始林があり、小川が流れ小鳥の音が賑やかで、奥には牛たちのがんびりと反芻している。その近くには、先端技術の研究棟が建っている。農場の彼方には高層ビル群が見えて、昨年は

オリンピックのマラソンコースになった。構内の真ん中あたりを幹線道路のトンネルが貫いている。車でトンネルを通っている人は、この上に牛が寝そべっている、学生がテニスに興じているなんて誰が想像するだろう。静かな森から出ると一気に大都会の様相になる。



白樺の散歩道(北大構内)

鶴田さん「B→C」248に

札幌トランペット副首席奏者の鶴田麻記さんが、国際的に活躍する若手演奏家の登竜門でもある、東京オペラシティアリーサイタルシリーズB→C(ビートゥーシー)248に選ばれました。公演は来年1月17日(火)に東京オペラシティアリーサイタルホールで行われます。

9月25日の「ふきのとうホール」での演奏は、明るく繊細な響きで「天使のラッパ」を想わせるものでした。その魅力は東京でも披露されます。

子供のころのように、今度には老人北大探検隊を組織しようかしら？

会員/井上明子

札幌読み聴かせコンサート

おぼけのマーブルとたのしいオーケストラ

夏休みに孫といっしょに札幌のコンサートに出かけました。たくさん楽器が一つになって音楽をつくることを感じてほしいとおもいました。キタラのホールは満席。いつもと違って子どもたちがいっぱいいます。ほほえましい雰囲気の中、札幌の皆さんがせいぞろいし、次々と演奏してくれました。かわい絵本をもらって帰る子どもたちの笑顔。神奈川に帰った孫が「おぼあちゃん、絵日記を書いたよ」とスマホで写真を送ってくれました。「またさっぽろで音楽がきたい！」そうです。

会員/中居志津子



8月11日(木)

2年 わたなべ まほ

さっぽろでキタラという大きなコンサートホールに、おぼあちゃんとお姉ちゃんが行きました。

子どもむけのオーケストラのコンサートで、いろんなきょうが聞けてたのしかったです。とくに、わたしがようちえんの「ラデツキー行しんきょく」をやってくれたうれしかったです。パイプオルガンに当たるしよつめいの色が曲ごとにかわってきれいでした。また、行きたいです。



### 極上のウィーン訛り 無骨な表情の奥からあふれ出る情熱

〇七重奏曲変ホ長調作品20  
(ベートーヴェン) ウィーン・  
フィルハーモニー室内アンサン  
ブル (75年録音)



苦虫をかみつぶずという印象の強いベートーヴェンが、肩の力を抜いて音楽するBeethoven喜びを全身で表現した、作曲家若き日の傑作を僕は少年の頃から愛してきた。モーツアルトの遺産を十二分に意識した、まさにドイツエルテイメントと言うのにふさわしいこの室内楽が包み込むぬくもりは、聴く者をこるのだろうか。  
流線型に輝く、典雅でしなやかなヴァイオリンの音色が音符の隅々にまで染み渡る。この感触こそがウィーン情緒なのである。ウィーン・フィルの名コンサートマスター、ヘッツェルと

はるかLPの時代から、裏面が聞こえはしないかと不安を抱くほど親しんだディスクである。晩年に達した心境を、本短調というメランコリックな調性にて、しみじみと語る作曲家最高傑作にクレンペラーが不愛想ながらも熱い共感を抱いて対峙しているのがある。

一見ぶっきらぼうな装いに時には近寄りたさをおぼえるものの、心の奥深くで明滅する情熱の炎が作品への愛情の濃さを物語っている。肌触りの滑らかな響きに欠けるとはいえ、ブラームス独特の充実した内声部が振幅豊かに存在を主張しているとともに、千変万化の人生模様を彷彿とさせる最終楽章の「主題と30の変奏」の説得力は深い余韻をのこす。

ヘッツェルは新しい仲間とこの作品を再録音したが、ここではアナログ時代への郷愁をこめてグラモフォン盤を推したい。

〇交響曲第4番短調作品98  
(ブラームス) オットー・クレンペラー指揮／フィルハーモニア管弦楽団 (56年録音)



R・シユトラウスの「4つの最後の歌」など、晩年の悔い思いを情豊かに吐露した音楽はすくなくないが、セピア色に染まる夕映えの輝きが哲人ブラームスの面目躍如、第2楽章での枯れた表情が特に素晴らしい。  
古い録音ながらも、40種を超えるこの交響曲の僕のコレクションのなかで一番に推薦できる名盤となっているのだ。

会員／村岡範男

### 運営スタッフ活動報告 上半期(4月～9月)

- 〇4月2日(土)
  - 第32回札幌くらぶサロン
  - 豊平館 47名参加
  - 第一部 プレトーク
  - 札幌くらぶ顧問 八木幸三さん
  - 第二部 ミニコンサート
  - ファゴット・夏山朋子さん
  - ピアノ・水口真由さん
- 〇4月23日(土)・24日(日)
  - 札幌市内中学校招待事業
  - 米里中学校 21名
  - 前田北中学校 25名
- 〇4月27日(水)
  - 運営会議 14名出席
  - 会報第97号発送
  - 書面総会議案書送付
  - 運営会議 10名出席
- 〇5月27日(金)
  - 第64回札幌定期演奏会
  - サービスカウンター設置再開 (スタッフの配置はなし)
- 〇5月28日(土)・29日(日)
  - 第64回札幌定期演奏会
  - サービスカウンター設置再開 (スタッフの配置はなし)
- 〇6月20日(月)
  - 運営会議 13名出席
  - 〇6月25日(土)・26日(日)
    - 札幌市内中学校招待事業
    - 羊丘中学校 38名
    - 篠路中学校 20名
    - 丘珠中学校 22名
    - 八条中学校 30名
- 〇7月19日(火)
  - 運営会議 11名出席
  - 〇7月24日(土)
    - 第33回札幌くらぶサロン
    - 豊平館 50名参加
    - 第一部 プレトーク
    - 札幌くらぶ顧問 八木幸三さん
    - 第二部 ミニコンサート
    - フルート・福島さゆりさん
    - ピアノ・小山雪絵さん
- 〇8月29日(月)
  - 会報第98号発送
  - 運営会議 11名出席
  - 〇9月26日(月)
    - 運営会議 12名出席

### スタッフの声

▼「演奏には「余韻」みたいなのに『予韻』があるんじゃない？」と言ったら笑われた。鳴ろうとするとき管を過ぎる空気、弦にふれるほんの少し前の気配、そしてすべり出す瞬間の予韻。クラリネット協奏曲の宵に感じたこと。(静)

▼久しぶりのバツハ無伴奏、教会に無頓着な身には今までの敷居が高く感じていた。居間にいる様子を花を眺めながら、実際に豪華な時間だった。音色が身に染みる、響音が素直に体内に浸る、至福の極み。飯村さんから2番も予告されたが、余韻に漂い続けた。(爽)

▼中学生を札幌定期に招待するときは、バスの到着を一人駐車場で待つ。始めは時間を持て余していたが、今は四季折々の美しさと鴨々川のせせらぎに癒され、開演前の贅沢なひと時となっている。キタラは音響だけではない。(高木)



札幌くらぶ  
ホームページ



札幌くらぶ  
入会申込書